

一凜

月刊

書道教室 薬院 一凜
sho-do ICHIRIN

繼續は力なり



No.22

2019年9月



夢は美一歩一歩
希望は高まれば
夢も希望も捨てなければ
必ず近づいてくる

刻むがよ、


月刊一凜 No.22 <2019年9月>

《競書審査員》佐々木峯雲 《発行》書道教室 一凜 薬院 《制作》野口昌芳(NS)



書道教室 薬院 一凜
sho-do ICHIRIN 

〒810-0022 福岡市中央区薬院3-7-25 原ビル2F
TEL / 092-791-7251 FAX / 092-791-7786
<http://www.shodo-ichirin.com/>

小倉百人一首に親しむ

第6回

歌番号6

かささぎの
わたせる橋にふく霜の
しきを見れば
夜ぞみけにける

この記事は角川書店発行「田辺聖子の小倉百人一首」より引用・編集したものです。

表現豊かな田辺聖子さんの文章で、小倉百人一首を楽しみましょう。

【現代語訳】 タの夜に天の川に橋を掛ける
というカササギ。
そのカササギが天界のよう
宮殿に掛けた橋に
霜が降りているな。
その白さを見ると、夜が
すいぶんと更けたなあと思う。

子供の頃の私は、この歌からカ
ササギが橋の上でぼつんと立って
いる姿をよく連想したものですが、それは中国の七夕伝説を知ら
なかつたからです。七月七日、一年
に一度、織女と牽牛が天の川を
渡つて逢う日、カササギが羽を並べ
て橋を作る。牽牛はカササギの橋
を渡つて織女に逢いにゆくとい
う伝説です。

正岡子規はこの歌の嘘が面白い
と言っています。
正岡子規はこの歌の嘘が面白い
と言っています。

「全くないことを空想で現して
見せるやえ面白く感ぜられ候。嘘
を詠むなら全くのないこととてつ
もなき嘘を詠むべし、しからざれ
ばありのままに正直に詠むがよろ
しく候」
この「かささぎのわたせる橋」を
虚構と解して面白がっているよう
です。

織田正吉氏の『絢爛たる暗号』
百人一首の謎をとくによれば、こ
の歌は「霜」や「白さ」や「天の橋」
の一群で、やがて後鳥
羽上皇の離宮のあつ
て、次の7番の「天の
原 ふりさけ見れば
春日なる三笠の山
にいでし月かも」を

た「水無瀬」を暗示
し、「天」から連鎖し
め切りに間に合うよう仕上げて郵送して頂いています。通信
は時間的にタイトです。
毎回、簡単な手引書を作つて添削作品に同封しています。
現在、二名の方が通信講座を受講されています。課題提出
までの流れは次の通りです。

現在、二名の方が通信講座を受講されています。課題提出
までの流れは次の通りです。

9月分 課題



《漢字 篆書》
六段以上



《漢字 隸書》
初段～五段



《漢字 楷書》
10級～1級

今月の言葉

現在、二名の方が通信講座を受講されています。課題提出
までの流れは次の通りです。

毎月、新しい一凜誌を10日前後に届くよう郵送しています。
凡そ25日頃までに添削作品が二人から郵送されてしまいます。届
き次第添削を行い、翌日には返却投函しています。そして、締
め切りに間に合うように仕上げて郵送して頂いています。通信
は時間的にタイトです。

毎回、簡単な手引書を作つて添削作品に同封しています。
かな課題は、私の筆使いと言葉による説明がなされた方が有用
だと考えますが、それが出来ないことにストレスを感じながら
手引書を作っています。二人も、手引書を見ながら同様のも
どかしさを毎月感じていることと察します。

名古屋在住の中山良子さんは、平成二十六年九月に漢字
が5級の時点から通信を続けています。この五年間一度も課
題提出を怠ったことはありません。今回の試験で漢字も準教
授(かな・準師範 硬筆・准教授)に昇格しました。
もう一人は、平成二十九年二月から転勤で神戸に移り住んで
いる曾根崎純子さん。平日は毎日帰りが遅いので、練習や仕
上げは専ら休日。作品の提出は毎回締切ぎりぎりですが、未
提出はこの二年半一度もありません。

一凜に通われている皆さん、気分が乗らない時でも、教室
に入った瞬間から書道モードに気持ちは切り替えられます。
この切り替えを自宅でやり続けなければいけないところに通
信の難しさがあります。毎月孤軍奮闘して送られてくる二人
の作品を見るたびに、その努力と意志の強さに感心させられ
ます。これからも、継続は力なり“を信じて頑張ってください。

親譲りの無鉄砲で子供のときから損ばかりしている。
小学生にいる時分、学校の二階から飛び降りて一週間ほど腰を抜かしたことがある。夏目漱石「坊っちゃんより」



中納言家持
ちゅうなんごんやかもち

【作者】
中納言家持
ちゅうなんごんやかもち

誘い出すと言っています。

家持は『万葉集』編集にタッチし
たのではないかといわれる歌人で
す。三十六歌仙のひとりで、おびた
らしい名歌を多く残しており、ど
う考へてもこの「かささぎの」が歌
歴を代表する作品とは思えませ
ん。しかも、家持の作かどうかが、断
定しにくいような歌を、定家はな
ぜ採用したのでしょうか。織田氏い
われるように、定家は百首で壮大
なクロスワードパズルをもくろんだ
と説明されれば、納得できます。